

令和6年度 第1回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会 議事録

○日時

令和6年7月26日(金)10:00~12:00

○場所

オーテピア4階 研修室

○出席者

別紙出席者名簿のとおり

○開催内容

1 開会

県立図書館長あいさつ

委員紹介

会長・副会長の選出・・・会長:加藤委員 副会長:篠森委員

議事録署名人の選出・・・竹崎委員

2 議事

(1)第2期オーテピア高知図書館サービス計画の取組状況について

(2)その他

3 その他

(1)第四次高知市子ども読書活動推進計画(R7~R11年度)の策定について

4 閉会

市民図書館長あいさつ

○議事録(※議事内容について事務局から説明後、意見交換)

議事(1) 第2期オーテピア高知図書館サービス計画の取組状況について

(委員)

昨年度からこの協議会に参加し、オーテピアが非常に力を入れてつくり上げられていることを知った。夏休みなので今日もオーテピアにはたくさんの親子連れがおり、本当に地域の核として愛されていることをより一層実感している。

私自身も1学期に3年生と一緒にオーテピアの見学に来た。1時間程度の紹介と館内の案内をしていただいた。オーテピアの歴史、使い方などをコンパクトに、子どもたちにもよく分かるように説明していただき、子どもたちも生き生きと楽しそうに見学していた。私が何より驚いたのは、オーテピアは潮江東の校区外になるので、子どもだけではなかなか来られないのに、大勢の子どもが来館したことがあり、それを見たい、もっと知りたいと、説明してくれる方の本の紹介などに食らいついていたこと。新刊の借り方や分室でも借りられるという仕組みも教えていただいた。今、子どもはタブレット端末を持っているので、説明でのやり方を見て、どうやって調べるかをすぐに理解する。学校へ帰ってからも、図書館へ行きたい、オーテピアへまた行く、という声が聞かれた。学校の見学の受入れはずっとされていたと思うが、私は初めて経験し、非常に良い機会だと思った。

ただ、本当に図書、読書が大好きで、家族の方によくここへ連れて来てもらうお子さんがいる一方で、来られない子どももいる。その時に家庭からでもアクセスできる KinoDen 等があり、大変有効な手立てだと思

っている。学校でも子どもたちがタブレットを十分に活用し、自分の学習を自ら調整しながら進めていく個別最適な学習が奨励されているところ。

家庭での読書や図書館に親しむ機会が少ないところへアプローチするには、学校の授業や日々の生活の中で、本にどれだけ親しむ機会を提供するかということが大事だと思う。私も含めて教員が、これだけの充実したサービスを十分に理解していないことが課題。校長会で話を聞いたが、例えば、教職員向けの団体貸出の利用が9校。高知市内には60校ぐらいあるのに9校はあまりにも少ないなど。校長会で話を聞いている校長の意識にすごく委ねられており、そこからの一本のルートではいかにも弱いことを実感している。先ほど事務局からも話があったように、学校に来て直接サポートしていただけるのはすごく良い機会だと思う。

言い訳になるが、今、学校現場は本当に人手不足で、病休や産休で休んでも補充の人員が入らない。そして、教頭が担任になる、校長も授業を持つのが当たり前、という毎日。自転車操業でいつ瓦解してもおかしくないような状況になっている学校がたくさんある。そんな中でも、子どもに学力をつけるために頑張っているが、学校だけではもうどうにもならない。いろいろなところのサポートを受けたいという気持ちはどの学校にもすごくあると思う。先ほど、高須小学校が社会科で図書館の方の授業を受けたという報告があった。高須小学校がこの学習をどのように見つけたのかを知りたい。どのようなサービスがあり、どのように使えるのか情報提供していただくと、疲弊している学校にとってすごく力強いサポートになるのではないかと、今話を聞きながら改めて思った。学校は本当に存続の危機に陥っていると思っているので、是非ともお力添えをお願いしたい。

(事務局)

ご質問があった高須小学校への出前授業について。高知市が出している出前講座のメニューの一つにオーテピア高知図書館としてどんなことができるかを載せている。それをきっかけに高須小学校からとりまとめの広聴広報課に、地域の歴史や変遷について学びたいという依頼があった。そこから図書館に話があり、高須小学校の先生と担当がよく話し合って実施した。何が一番良かったかというと、学校にはない情報・資料が図書館にあるということ。自分たちの住んでいる地域がどんなふうに変わっていったのか、航空写真などを見て非常に盛り上がり、たいへん良い授業となった。直接のやりとりではなく、市の出前講座のメニューがきっかけでこういう形でお役に立つことができたという、私たちにとっても良い例。ただ、高須小学校では全部で3クラスの授業をしており、人手は大丈夫かという心配が少しある。授業の方法を工夫しないといけないと思っているが、スタートとしてはこちらもたいへん勉強になった事業で、良い取組になっている。

(委員)

1点目は一宮ふれあいセンターにも関わる分館・分室について、2点目は先ほどの話と少し重複すると思うが、図書館見学について、3点目は電子図書館について。

まず分館・分室について職員に話を聞いてみると、とても風通しが良くなり、仕事がしやすくなっているとのことだった。分室の場合は1人勤務の場合が多いが、困ったこと、分からないことがあったときに本館とのやりとりが気軽にできるようになり、分からないことが気軽に聞けるようになって、とても勤務がしやすくなったと話していた。

オーテピアの職員の方が分館・分室で仕事を体験するという話もあって、自分たちのところの1人勤務について理解してもらえ、これからもっと交流や意見交換などがしやすくなるのではないだろうか、とても

期待していると話していた。

それから、分館・分室の利用については、その地域の居場所ということになるが、私は以前、高知市教育研究所の教育相談班に勤務していて、不登校の子どもたちとたくさん関わってきた。今、教育研究所は棧橋にあるが、研究所まで直接行ける子どもたちは多くないので、引きこもっている子どもが少しでも外へ出られるような地域の拠点となる場所はないだろうかと探したこともあった。分館・分室はそれぞれの地域にあるので、引きこもっている子どもたちが気軽に出て来れる場所になればいいなど、話を聞きながら、今後、展望が開けていくのではないかと思った。

2点目は、先ほど実際に行かれたという図書館見学の話。学校の先生と少し話をする機会があり、図書館見学についてはすごく感謝している、説明がとても丁寧で分かりやすいと聞いた。だが、受け身的な場面が非常に多く、子どもたちが自発的に自分の方から能動的に関わるような場面が、残念ながら今のところない。時間的なこと、職員の人数、他の利用者との関係などいろいろなことがあると思うが、事前学習というか、こんな本をオーペピアで見つけてみたいといった意欲を事前に子どもたちに持たせる、例えば、地球についてもっと知りたい、植物についてもっと調べてみたいといった意識を持って図書館見学に出かけてその本に出会うという成功体験があったら、また行ってみようという積極的な態度になっていくのではないか。けれど、なかなかそれは難しいかもしれないという話だった。ティーンズ(コーナー)と絵本の場所は子どもたちが大変興味があるようで、見学中にそこでの滞在時間をもう少し増やして、子どもたちが本を手にとれるような内容が加われば嬉しいと話していた。

3点目は電子図書館。事務局からも説明があったGIGAスクール端末。子どもたちはタブレットを持っており、アカウントが割り振られてアクセスができるようになった。電子図書館のアクセス数はたいへん伸びている。だが、そのことによって起こる弊害というか、先生の話では、子どもたちがこの本を見たいと思ってアクセスしても借りられない、見られないという事態がたびたび起こっていて、先生の話では子どもたちがどんどん意欲をなくしている。最初は喜んでアクセスするが、見たい本は結局見られず、何これ、みたいな状況が起こっているということを知った。全員にアカウントを割り振ったので、ものすごいアクセス数になって、誰かが借りたらそれは試し読みもできないという状況になると。失望とまでは言わないが、せっかく良いものがあるのに見ることができないのかといった声が子どもたちからたくさん挙がると聞いている。そして、電子図書館の仕組みはよく分からないが、例えば、A君が1冊の本を借りるが、A君は1週間ずっとその本を見ているわけではないと思うので、A君が見ていない時にB君やC君が見れるといった仕組みになれば、人気図書にもいろいろな子どもたちがアクセスできるのではないだろうか、その先生はおっしゃっていた。実際にそんなことができるのか分からないし、著作権の問題など難しいことがあると思うが、そのあたりも考えていただきたい。電子図書館でもう1点。電子書籍をプルダウンで探すようになっているが、プルダウンの項目が子どもたちには難しいようだ。プルダウンしても社会科学、自然科学などの文字が出て、「先生これはどうということ」と聞かれる。もう少し子どもたちが利用しやすいように、プルダウンの項目にふりがなをつけるなどがあったら嬉しいということを少し聞いた。

(事務局)

電子書籍については、平成29年度から運用している、いわゆる貸出型の電子書籍サービスは、借りたら2週間はその方の占有になってしまう。電子書籍なので延滞はなく、2週間経つと権利は放棄されるが、2週間はその方の占有。それと、基本的には一つの本は1冊しかない状況。ものによって2冊使えるというものもある。

るが、ほぼ1冊のみになるので、人気の書籍を増やすのは少し難しい状況にある。

その一方で、昨年度提供を開始した KinoDen という、閲覧型の電子書籍サービスは、見ている間だけ占有するという形のもの。何かの用事で15分見るのを止めたらもう返したことになる。根気強くクリックし続ければ占有できるようにはなっている。貸出型と閲覧型でそうした違いはある。

また、プルダウンの項目が難しいという件については、より使い勝手がよくなるように検討させていただきたい。

(委員)

こういうふうになんか変わったということがあれば、学校へ連絡してもらえたら子どもたちにも周知できる。先ほどの KinoDen の話なども、どれだけの先生方、子どもたちが知っているのか、何か知らせる方法があれば、KinoDen の方がもっと活用しやすいのではないかと今聞きながら思った。

(事務局)

KinoDen の方は実用書、事典などが中心になっているので、特に学校での勉強に使っていただいたら良いと思う。機能が変わったり、大きく冊数が変わったりするようなどときには、その都度、学校にしっかりお知らせするようにしたい。

(委員)

電子図書館の広報の部分、ホームページに、特徴を書いて掲げておくのも良いかもしれない。高知県電子図書館と KinoDen にはこういう違いがありますよという形で。それを使い分けてもらうこともリテラシーの一つだと思うので、学校への周知徹底も必要だが、ホームページから入るときに、こういう特徴、特性を理解してくださいというお知らせがあった方が良いかもしれないので、ご検討いただきたい。

(委員)

先日、県主催の(県民文化ホール)グリーンホールでのイベントに行った。私は、出前図書館は学校や会社へ行くものだと思っていたが、そのイベント会場の一角に出前図書館が来ており、オーテピアの旗を立て、テーマに合わせた本をいろいろ展示してあった。私は図書館の利用カードを持参していなかったが、それでもその場で借りられるとお聞きした。アプローチの仕方や宣伝がすごく上手。平日のイベントで年配の方が多かったが、皆さん感心していた感じだった。ここにおられる方で行かれた方がいるかもしれない。県が主催の事業は図書館で把握できると思うが、他の団体が主催の事業の情報は把握できるのか。私は初めて見たが、毎回行っているのか。どれだけ成果があったのか。

それともう一つ。今年も災害級の暑さだが、高知市立の学校では、プールの使用が全部禁止された。私の子どもは毎日プールに行っていたが、安全性の関係で子どもの行き場所であり遊び場であったプールが禁止になった。子どもに関わるボランティアの視点でいうと、図書館はエアコンもあって涼しくて水もあるので、暑い夏休みの居場所になると思う。

先ほどの話にあったが、私の家もここから遠いので、1人ではなかなか図書館に行けない。それに、最近テレビで毎日のように、昼間は外へ出ないでくださいと報道されると、外へ出られない。そうすると、親が車で連れて行かない限り、図書館へ行くのは無理だろうし、外遊びや運動も禁止になったりするので、子どもの

居場所というか受け皿のことがすごく気になる。

それから、図書館に來られた場合のことだが、子ども向けのイベントや展示をこれからも増やしてほしいと思う。子どもたちの夏休みの宿題には今も自由研究があると思う。私の夫が公民館長をしていて、自由研究のイベントもするが、どうしても木工などが中心になってしまって、科学実験などはできない。子どもたちが上(みらい科学館)にも行くだろうし、なかなか難しいとは思いますが、自由研究のテーマに沿った展示があれば良いと思った。

(委員)

居場所の話から、子どもたちの活動の場を広げる方向で図書館の利用について考えてほしいという話があった。特に、今回のように、暑くてもプールが利用できないという特殊な場合において、イベントを含めて対応できる面があれば少しご紹介いただきたい。

(事務局)

このオーテピアの施設は、高知市のクーリングシェルター、涼みどころとして指定されている。指定される前から、分館・分室も含め、図書館はもともと暑さをしのげる場所でもあると思う。

そうした中で、夏休みの様々なイベントも催しているが、自由研究では、複合施設の強みとして、科学館で自由研究の手助けやイベントを行っており、科学館の職員も、分からないことがあったら図書館へ調べに行くといいよと、館内でも促している。

土曜日は定例のおはなし会をやっている。これからイベントを増やすのは今年は難しいと思うが、その一方で、周知、告知というか宣伝が足りない部分があるかもしれない。皆さんが情報を取りに来て、ウェブ・サイトでオーテピアでやっているイベントが分かることもあると思う。一方で、市民図書館としては、分館・分室のイベントを積極的に全て載せると来館者が増え過ぎるという心配が、特にコロナ禍のときにあり、分館・分室の情報については、選んで載せている。子どもたちにとっては、オーテピアはもちろん、自分が住んでいる近くの方館・分室も大事な拠点だと私は思っている。そこでの情報をどう流していくかは、市民図書館としてもう少し考えていかなければならないと思う。

(委員)

5年度の実績の話聞いて、オーテピアや市民図書館(の方館・分室)が素晴らしい取組をされていることに改めて感心した。そんな中で私から3点、お聞きしたいことがある。

まず、先ほどから電子図書館のことが出ていて、これを各市町村に波及させたいという話をされていた。今、小中学校の利用登録をしているのは高知市と他の7市町村ということだが、高知市外の市町村へのPRは素晴らしいことだと思う。(前年度に比べて)3倍ぐらい利用が増えているのは、すごく良いことだと思う。反面、先ほど言われたように、自分がチェックしようとしてもなかなかできないところもあつたりするので、電子書籍の良い点や課題について、各市町村に十分に広めてほしいと思った。

2点目は学校との連携で、今後、市民図書館で不登校対策をしていきたいという話があつたが、このことについて具体的に聞きたい。

3点目は多文化サービス。本当にたくさんの人に高知へ来ていただいている。その人たちは、高知市のオーテピアにはたくさん来ている可能性があると思うが、各市町村の中で、外国人が図書館へ行き、本を見る

姿はまだあまり見ていない。そうした中で、外国人が市町村の図書館に自由に出入りして、自分たちの生活を豊かにする、そうすることで移住も増えてくる、そういうところから見ると、図書館のこれからの役割はとても大きいと感じた。これから、オーテピアや大きな施設がどのようなサービスをしているか市町村から聞かれることがあると思うので、そういったことも図書館協議会等で話をさせていただければありがたい。

(事務局)

不登校対策としては、現在も高知市の教育支援センターと連携して、通所している児童生徒が作成したPOPを展示したり、館内見学に来てもらったりしている。それから、教育支援センターのすぐ近くにある潮江市民図書館と連携して、職場体験のようなことや、団体貸出なども行っている。

もう一つ、高知市における不登校のとらえ方が、以前は、学校に来てもらう、来させるということ、だったが、最近はそうではなく、その子に合ったやり方をするという方向に変わってきている。(高知市不登校支援推進協議会が)高知市に対してそのような提言をしたとお聞きしたので、先週、オーテピア高知図書館職員全体の行政課題の研修として、教育支援センターの方に講義をしていただいた。それを踏まえて、教育支援センターなどが行っている新たな取組に対して、図書館とどう連携していくかという情報共有をさせてほしいをお願いをしている。具体的なことはまだ決まっていないが、少しできそうかなと思っているのは、高知市では教室までは行けないが別室で授業を受けている子どもたちの支援をする校内サポートルームが設けられており、例えば、そういうところと直接やりとりができるのではないかと、今、こちらが勝手に思っている。また、多文化の方にも関係するが、外国につながる子どもたちの支援についても、教育研究所を拠点として各学校へ支援員が行っているの、そこに対しても何か資料面でできるのではないかとこちらでは思っているので、話を聞きながら具体的な案を考えていきたい。

(委員)

例えば、不登校の子どもたちが図書館へ行って、図書館の方から本の紹介を聞く中で、興味関心を示すものがあつたときに、一緒にそれを広げていくということも図書館の活動の中で素晴らしいことだと感じた。参考にさせていただきたい。

(委員)

お聞きしていて思ったのは、今は不登校であっても勉強ができないという時代ではない。ただし、そのためには、不登校の子どもたちの情報リテラシーを高めてあげる必要があると思う。

確かに学校は苦手という子もたくさんいるが、それは否定すべきことではなく、その子の一つの個性だと思って、そういう子どもたちが情報をうまく入手して、いわゆる学習に当たるものを自分から進んで行う手助けを図書館が一番しなければならぬことではないかと思う。ご検討いただきたい。

(委員)

計画の進捗報告やこれからの方向性の話を聞かせていただいて、本当にすごいと毎回思う。

1点目は感想で、事務局から外国人材の(図書館活用事例の)漫画の紹介があつた。私が毎月、経営の計画を進捗させる経営支援をしている製造業の会社があり、そこに昨日も行ってきたが、そこは、まさにベトナム人の実習生が従業員全体の8割ぐらいを占めている会社で、実習生の制度が変わることに対応しつつ、これ

からも積極的に実習生を受け入れていきたい、おそらく5年後には従業員はほぼ 100%ベトナム人になるのではないかとおっしゃっていた。

制度が変わり、転籍も可能になるような実習生制度になったので、そういう意味では、いろいろな工夫をし、働きやすい、あるいは住みやすいように環境を整えながら、魅力を高めていかなければいけないということで、これから頑張っていこうとしている。

例えば、働きやすさという面では、工程の中で実習生にいろいろと教える場面がある。これまでは日本語のマニュアルで教えていたが、これからはベトナム語のマニュアルに翻訳して教えられるようにしようとしている。ただ、その際にグーグル翻訳などを使うと、正確ではない翻訳になったりしてなかなか伝わらないこともあるので、そのあたりをどうしたものかという話があった。いずれにせよ、高知県では、製造業を中心に、農業もそうだと思うが、外国人実習生がこれから増えていくので、住みやすさの面でもオーテピアが関与できる場所があると思う。一方で、ビジネス支援でも、何か関与できると感じていただけたところがあると思った。この取組は非常に素晴らしいと思うので、是非これからもご尽力いただきたい。

2点目は提案になるが、今日、いろいろな話を伺いながらホームページを見ていたが、ホームページが少し見にくいのではないかなと思う。特に、利用者層ごとにニーズが違い、例えば、私だったらビジネス関係のことを調べていきたいと思っている。ビジネス関係で、オーテピアには行けないが、こんな調べものをしたいとか、オーテピアとは直接関係がないかもしれないが、例えば、私は車で移動する時間が非常に長いので、その移動時間にいろいろと勉強したいと思い、最近はAmazonのAudibleなどを入れて、移動中にいろいろな本を聴きながら勉強している。今日の話聞いて、もしかしたら KinoDen の音声読み上げ機能のようなものが使えるのではないかなと思った。そういう意味では、知らないことがたくさんあるので、利用者層ごとにたどり着けるような、ホームページ版のパスファインダーがあったら良いのではないかなと思った。

ホームページにはすでに、「図書館 学校関係者の方へ」とか、「障害のある方へ」という、利用者層ごとのボタンがあるが、開館から6年経って大きくりの利用者層が例えば、「ビジネス関係者の方」や子育て中の方などがスムーズにたどり着けるようなホームページになればと思う。来館者向けのサービスは非常に充実してきていると思うし、非来館者サービスとして電子図書館、KinoDenなどが充実していると思うが、非来館者サービスはまだまだ知られていないと思うので、そういう課題に対応するためにも、利用者層ごとのニーズを把握して、その方々が適切にたどり着けるようなホームページの仕組みを作られたら良いのではないかなと思った。

(事務局)

ホームページに関しては、おっしゃるように開館前から立ち上げ、この6年間やってきて、自分たちの進むべき方向性やカテゴリーが分かりやすくなってきたところ。奥は細分化されているが、そこにたどり着く入口を、もう少しシンプルに、先ほどアドバイスいただいたような形で、欲しい情報にたどり着きやすくてできればと思った。どのようなタイミングでできるかということは即答できないが、そうしたことを意識して作っていく必要があるとご意見をいただき、ありがたい。

(委員)

立ち上げたときには、先ほど話があったように、子どもたちが皆、GIGAスクール構想で(1人1台の)タブレットからアクセスできるという視点はなかった。そういうユーザーのニーズも考慮して、ホームページの構

成などを考えるべきかもしれない。よろしくお願ひしたい。

(委員)

今の子どもは、そういう教育が行き届いていると思うが、我々大人はそういう教育を受けていないので、なかなかたどり着けないというもどかしさもあって、ぜひ大人も意識していただくようお願ひしたい。

(委員)

私からは、資料を見ての感想と、ずっと考えていることについて話したい。

この資料を見るたびに、頭が下がる思い。外国人の方に関する『高知でくらす×はたらく』常設展示を新設したということだが、このことはこれからすごく重要になってくる。以前にもお話したが、その中に絵本なども入れていただいたら、ほっとする一つのコンテンツになるのではないかと。もしかしたら、ご家族がいる外国の方もいらっしゃるのではないかしらと思うし、日本語を簡単に楽しく学ぶ機会であったり、本当に数は少ないが、東南アジアの絵本などがあれば、ほっとするコンテンツになるのではないかしらと思う。また、健康・安心・防災情報サービスのところで、ふくし機器展で出前図書館を行ったとの報告があったが、私も、保育士時代に肢体不自由のお子さんがいたので、ふくし機器展へ行ったことがある。こういうことで困っているお子さんがいる、頑張っている方がいる、そして実際にこういうものがあると知ることは、自分が介護する側、介護される側になったときに、実際に見たことがあるのとないのとでは随分違うと思うので、良いことだなと思った。そのふくし機器展に出前図書館として参加していたことは、意義のあることだと思う。

ティーンズ・サービスについては、とても面白いと思った。このリレー小説などは見ることができるのか。生徒や子どもを巻き込むのにも面白そう、楽しそう。スリルやサスペンスなどがあれば、そこに人が集まるのではないかしらと思うので、そういうことをまたやっていただきたいと思う。「高校生ビジネスプラン・グランプリ」もすごいなと思って見せていただいた。

一つ懸念されるのは、以前にもお話したが、高知県や高知市の人口減少のこと。これは本当に危機的な状況になってきたと思っている。立派な施設で内容も本当に誇れるオーテピアだが、これからも人口減少は止まらないと思う。私の周りを見ても、子どもが少なくなったし、近所も高齢者ばかり。保育園の園児数もどんどん減ってきている。高知市の人口減少はわずかもかもしれないが、郡部はどんどん減っていると思う。そうした中で、絶対に守るべき優先順位を、これからオーテピアとしても、考えていかなければいけないのではないかしら。分館・分室に任せたり、他機関に任せたら良いところも、これから考えていかないと、あれもこれもやって素晴らしいといった感じで、いろいろなことをどんどんやることはどうなのかと思っている。

それともう一つは、働き方。保育園はブラック。学校もブラックですね。先ほどお話を聞いて、学校もここまでブラックになったかと思った。保育士から市役所の相談員になったとき、周りのいろいろなところを見て思ったことを語弊を恐れずに言うと、優秀な男性の職員は結婚しているが、女性は若いときに勢いで結婚すれば別だが、そうでないと、責任がどんどん重くなって仕事量もどんどん増えていき、そのような状態では結婚して子どもを産むことがなかなか難しくなってくる。私も孫のことを随分フォローしているが、近くにフォローしてくれる人がいないと難しいと思う。

子どものトイレトレーニングは、ほぼ保育園の仕事になっている。延長保育、病児保育は働くために必要と言われるが、先進国でこれほど延長保育が充実しているところはない。子育てが楽しく、子育てに余裕がないと子どもを産むことにはならない。

企業の専門の方もいらっしゃるが、子育てを楽しむことや、お金のこともそうだが、余裕のある働き方ということを考えていかないと、これから先、高知でも日本でもいろいろと難しくなると思っている。

保育園の保育士が、子どもの初めてのハイハイ、初めての一步、初めての離乳食など、初めての云々というのを全部見守るというのは違う。やはり親御さんに初めての云々を子どもたちと一緒に楽しんでもらいたいので、すごく大きな話になるが、ここにいる皆さんで働き方、子どもたちの未来、自分たちの未来を考えてみることもすごく大事な機会だと思ってお話しさせていただいた。

(事務局)

ティーンズ・サービスの話をさせていただくと、リレー小説を見られるのは、今のところメンバーのみということになっている。4、5人ぐらいがパートを分けて続きを書いていくものになるが、書き手が変わると展開が大きく変わって、結構面白い内容になっているので、メンバー以外にも見られる範囲を広げるための工夫や方法について検討していきたいと思う。

それから、人口減少対策の話だが、先般もかなりショッキングな数値が出ており、そうしたことを図書館としても非常に重く受けとめている。人口減少対策が県の最重要課題になっているので、図書館としてどういった取組ができるかを、サービス担当の方で検討している最中。簡単にできることから、すごく重い問題までいろいろあると思うが、本はたくさんあるのでそれをどう整理し、見せ方を工夫していくことによって利用をどう伸ばすか、必要とする情報を必要とする方にどのように届けるか、そのあたりの工夫をしっかりとやっていきたいと考えている。

(委員)

いろいろな取組をされていて本当に素晴らしいと、いつも感心している。私は、利用者としての立場からお話をさせていただく。

先ほどのお話にもあったように、ホームページが少し見にくいかなと思っている。例えば、分館・分室の情報を見たいと思うときに、アプリの方から入っても、どこからどこへ飛んだら良いのか、ホームページを見ても、開館日や開館時間にたどり着くまでに時間がかかるので、もう少し分かりやすくなれば良いと思っている。

前回は Instagram の活用が結構されているという話をしたが、他の情報を見ているとオーテピアの情報がすぐに入ってくるので、良いなと思っている。「10代が抱える体・心の悩みや性に関する本の展示のお知らせ」など、夏休みに入ったので、こういう機会にティーンズの皆さんに、ぜひそうした本も手に取ってもらいたいなと思った。

Instagram のハイライト機能のように、例えば、ビジネスの方はここから入れば端的に情報が見られるというのも良いなと思った。

分館・分室には(専用の)ホームページはないですね。Instagram などSNSですぐに見られるものがあったら良いと思った。

それと、夏が年々暑くなってきていると感じるので、涼みどころとして、クーリングシェルターとしての役割も本当に重要になってきていると思う。前回もお話したと思うが、8月9日から12日までのよさこいの期間が蔵書点検の日になっている。4日間で蔵書点検されるのは本当にたいへんだと思うが、よさこいのときに開いてないのは残念だという声も結構あるので、どうしてこの時期に設定されているか。県外の方も結構

来られるので、ご事情があり仕方がないことかもしれないが、図書館を見ていただくには良い機会だと思っておりますのでお聞きしたい。

(事務局)

まず、ウェブ・サイトについては、分館・分室の紹介ページは、オーテピアのTOPページから分館の「分」というマークから見に行くようになっている。そちらに開館時間や写真は載せているが、個別の事業紹介は積極的に載せていないので、それはおっしゃるとおりに工夫が必要だと思っている。

この8月に分館・分室を紹介する展示を行うと申し上げたが、この展示は分館・分室に注目し、みんなに知ってもらいたいという思いと、分館・分室の職員に聞いた地域のおすすめどころを載せたものになっていて、ゆくゆくはまとめてホームページにもアップしたいと思っている。分館・分室あつての高知市民図書館だと思っているので、これまでやってきたことから、少しずつではあるが変えていくことをやっていきたいと考えている。

蔵書点検の休館について、蔵書点検をしなければ図書館としての機能が果たせなくなるので、そのためにまとまった期間を充てる必要がある。8月3日によさこい祭りの栈敷席が設置され、追手筋から車が入られなくなる。駐車場の入口が一部変わったり、途中からは使えない状況になることや、よさこい期間中はかなりの音量があることを踏まえた上で一定の期間を取るには、もうここかなど。その代わりにオーテピアとしては、1階と4階の休憩コーナーは開け、5階の科学館も一般展示は通常どおり見ていただけるように開館している。また、トイレや授乳などといった、涼みどころとしての役割も果たしていきたいので、全館の閉館はしていないというところ。

(委員)

大ざっぱに言えば、オーテピアが最初から掲げている進化型の図書館。時代の変化に応じて、我々はどうやって進化していくのかということがある。

それからもう一つ、電子図書館をメインに挙げていたが、電子図書館はそもそもどうあるべきか、そもそも何ぞやというところからもう一度、計画を見直していく時代になった。

特には出なかったが、生成AIの進化を考えると、我々が想定していなかったような電子図書館のあり方もあり得るかもしれないという視野で考えるべきだろう。

それから、実際の利用に関しては、まだまだコロナ感染が11波でという形で、特殊な状況が続いているので、それも踏まえた上で、今後の計画作成等に生かしていただきたい。

議事(2) その他

3 その他

(委員)

事務局は本日の委員からの意見について、サービス計画の進捗管理を行いながら、今後の図書館運営に生かしていただきたい。

12時00分 協議終了

令和6年度 第1回 高知県立図書館協議会・高知市立市民図書館協議会出席者名簿

令和6年7月26日（金）

オーテピア 4階研修室

○委員

役 職 等	氏 名	備考
高知市立潮江東小学校長、高知県学校図書館協議会会長	竹崎 有紀子	出
高知市一宮ふれあいセンター長、元小学校長	上村 国之	出
横浜小学校区青少年育成協議会 代表推進委員 元高知市青少年育成協議会理事	西尾 敦子	出
津野町教育長	久寿 久美子	出
フリーアナウンサー、子育て支援員 第四次高知県子ども読書活動推進計画策定委員	花房 果子	出
元高知市保育園長	神野 万里	出
特定非営利活動法人こうち企業支援センター理事長	田村 樹志雄	出
高知大学名誉教授	加藤 勉	出
高知工科大学情報学群長	篠森 敬三	欠
特定非営利活動法人高知市身体障害者連合会会長	中屋 圭二	欠

○事務局

所 属 等	職 名	氏 名	備考
高知県立図書館	館 長	杉 本 幸 三	
	副館長	岡 村 祐 人	
	専門企画員（司書育成・サービス推進担当）	尾 形 千 晶	欠席
	企画調整課長兼チーフ（企画調整担当）	吉 村 幸 男	欠席
	チーフ（総務担当）	浅 川 美 佐	
	チーフ（図書利用担当）	谷 岡 祥 子	
	チーフ（情報資料管理担当）	渡 邊 哲 哉	
	チーフ（支援協力担当）	鈴 木 章 生	
	企画調整課 司書	八 田 裕 子	
	企画調整課 司書	上 岡 真 土	
	企画調整課 司書	宮 本 直 美	
	企画調整課 司書	戸 苅 綾 子	
	企画調整課 主任	那 須 真 紀	
高知市民図書館	館 長	高 石 敏 子	
	副館長	横 川 良 明	
	図書利用担当管理主幹	武 井 一 仁	
	図書利用担当係長	川 村 紀 代	
	図書利用担当係長	川 村 美 里	
	資料管理担当係長	徳 平 晶	
	管理担当係長	下 元 美 和	
高知市 図書館・科学館課	課長	弘 瀬 友 也	